

幹事長 北原輝久
川名宏美監督がこの一月、長年勤められた日刊スポーツ新聞を定年退職された。今後は早大、中大の実技講師として第二の人生を歩まれることになる。この事で、同時に監督として従来以上に部員の面倒をみていただけるものと期待しています。



北原幹事長

監督に就任されたのは昭和46年。佐藤武元監督からバトンタッチを受けられたものです。この間、成瀬正也先輩、萩野元平先輩が短期間、監督を務められた事がありますが、現在まで20年間の長きにわたって部のご指導をしていただきありがとうございます。殊に今まで、ジャーナリストという多忙な職務のかたわら監督実技講師を兼任してこられたわけで、その間のご苦労は大変なものがあったと推察いたします。

推され、その後、幹事長を拝命し精一杯ご協力をさせて頂いていただいたつもりですが、常に変わらぬ情熱的な指導ぶりには頭の下がる思いがします。また近年、グニエル・ルブニュー(仏)スクリュードリク(ポランド)大川平三郎(米国)といった世界でも第一級の指導者による講習会を母校の道場で開催できたのも「正しい指導力の導入を」と願う川名監督のお力によるものと感謝しております。

川名宏美監督の話 早いもので30年間にわたる新聞記者生活があつたという間に過ぎ去り、気がついたら定年退職の身。全速力で疾走していた車がふっと停止し、ドライバーが一種気の抜けたような状態に陥るそんな気持ちを、味わっております。と、いつてのんびりできる状態ではないんです。月曜日は月曜会、火曜日は中大講師、水曜日は本庄学院の指導、木金土は母校で実技講師と毎日やる事があるんです。部員の練習にも極力付き合っています。夏休みは本庄学院と高等学院生たちの夏期集中練習で毎日道場通い。春休み

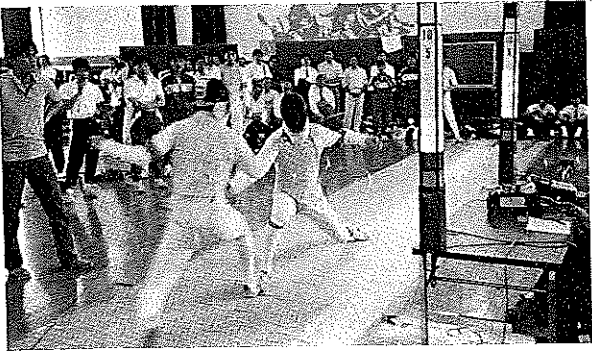
稲光会報

平成2年8月10日発行
編集者 早稲田大学稲光会
発行所 北原 輝久
印刷 関王友社
第13巻第19号

2・3ページ...リーグ戦入替戦
4ページ...川名監督定年退職

1部リーグ復帰のチャンスに惜敗!

関東学生リーグ戦入替戦、拓大戦で「あと1勝」の壁を破れず...



1部リーグは未嘗宇の大混戦。専大(フルール)、法大(サーブル)、日体大(エペ)と優勝校が割れ、全種目2位の中大が総合優勝という学連初の珍事となり、フルール3位の拓大がサーブル、エペで最下位となり総合も6位。思いもよらぬ入替戦出場となったものです。その動揺は隠しようもなく、フルールの出足はハッキリ委縮してしまいました。出野、山岸がその乱れを突いて連勝。3番手北原も4・1とリード。この試合を手堅く勝つていけば、4番手の藤倉も勝っているだけに一気に拓大を叩くチャンスでした。しかし早大ベンチには「昨年の優勝チーム、拓大のフルールは強い」との思いが無意識の内にあり、これが爆発力にかなり



はリーグ戦に備えての大学の練習に顔を出し、二次、三次にわたる合宿にも参加するといった具合で、一年中フエンスングをやっている結構な身分なのであります。

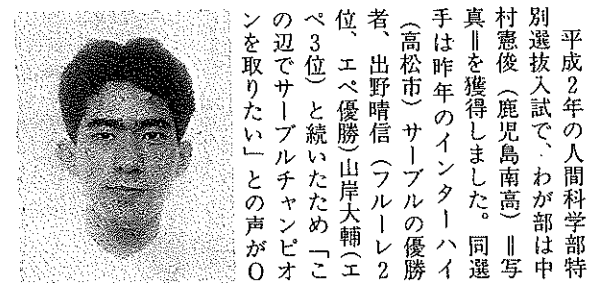
会社を辞めてから、フエンスングの世界での肩書きが増えました。その一が全日本学生連合理事長。その二が東京都協合理事(これは成瀬会員も一語です)。これは二年前からやっている関東学連監督会会長というのもあり、この関係の各種催しや会合が少なくないんです。浪人の身の軽さで極力顔を出していますが、リーグ戦の開会式や王座決定戦の開会式であいさつをさせられたのには参りました。学生たちにとっては便利なおじさんが常に身近にいるというこのようです。ま、名誉職はさておいて、これからは部の強化ということに本腰を入れて取り組むつもりです。もちろん練

惜しい! 1部復帰へあと1歩。平成2年度関東学生リーグ戦入替戦で、母校早大は1部最下位拓大に挑戦。結果は0-2で敗れたものの、サーブルで8-8の被突数負け。得意種目エペに持ち込めば勝算があったため、「あと1勝」の壁を破れず無念の涙をのんだ。(成績詳細は2面に)

- △入替戦
- (6月3日法大体育館)
- 拓大 2-0 早大 (1部6位) (2部1位)
- ▽フルール
- 拓大 9-5 早大
- ▽サーブル
- 拓大 8-8 早大

ブレーキとなっていたようにです。結局、主将北原が痛い星を落とし、早大が調子の波に乗り切るより先に、拓大が早く立ち直ったのです。それが中盤での6連勝につながり、わがベンチの闘争心に水を差す結果となっていました。

サーブルは電気審判器を使用。1部はリーグ戦で採用(次ページ別項参照)していますが、わがチームは



平成2年の人間科学部特別選抜入試で、わが部は中村憲俊(鹿児島南高) Ⅱ写真Ⅱを獲得しました。同選手は昨年のインターハイ(高松市)サーブルの優勝者、出野晴信(フルール2位、エペ優勝)山岸大輔(エペ3位)と続いたため「この辺でサーブルチャンピオンを取りたい」との声が0

月曜会が14年に OBが現役と一語に練習し交流を深めるとい趣旨で発足した「月曜会」は十四年目を迎えました。毎週月曜会午後六時から八時半まで、新人や女子部員を個人的に指導したり、OB同士でフアイティングをやったりと楽しいひと時を過ごしています。常連は川名監督と私、それに橋本、成田、

先輩も一時、よく顔を見せていましたが、最近はお忙しいようです。最近OB同士でフルール、サーブルの電気ファイブもやるようになり、ノーマル剣と違って電気は判定がハッキリしているの面白さが増えますね。特にサーブルは新しいせいでも実に興味深く、また勉強になります。夏休み、春休み等、学校が休みの間はできませんが、授業期間中はかならずやっています。ぜひ皆さんも参加して下さい。お待ちしております。(会計担当幹事 吉田友久)

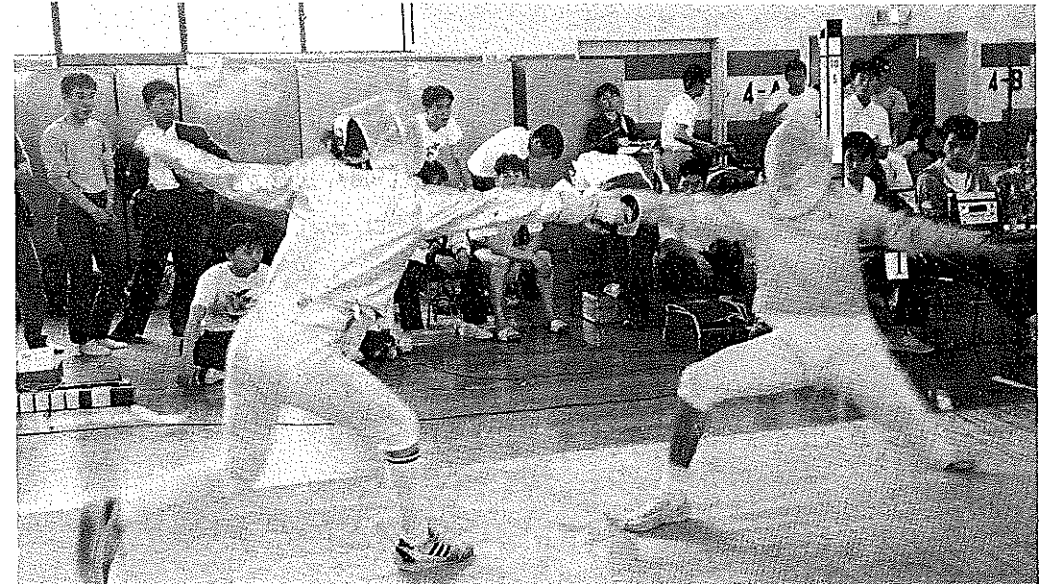
総合報告 稲光会長として皆様にご報告させていただきます。平成元年度総会は去る五月十七日、校友会館にて開催しました。二十人を超す出席者が集まりましたが、越前、石田会員などという珍しい顔が見られたのが懐かしく、また伊藤栄司会員(昭和37年度)という卒業以来初めての出席者もいてなかなか盛況でした。吉田会計担当幹事による

会計報告 橋本幹事からの活動報告などがあり、ほかに現役の北原主将からはリーグ戦の展望で「2部優勝入替戦に勝って1部復帰」という元気のよい発言もありました。ま、こちらはあと一歩のところまで及びませんでした。なかなかよくやっていると自覚しています。最後に私をはじめ現幹事全員が留任ということで幕になりました。地方会員の方とお会いできる機会は少ないのですが、年に一回のこの総会か十月十日にはぜひご出席いただきたいと思います。この場をかりてお願いいたします。(金子誠会長)

特別選抜にインターハイ優勝者・中村 B、現役の間から起こって来たものですが、その期待に応える形で見事、サーブルのスペシャリストを獲得できました。もともと、現在のわが部は層が厚くなり、高校から来てすぐレギュラーになるというわけにはいかず、今年このリーグ戦はもっぱらベンチで応援専門。しかし持ち前の運動神経と勝負強さは、かならず来年から戦力の中核となってくれる可能性を秘めています。ご期待ください。

中村憲俊選手の話 インターハイではとても優勝できるとは考えていませんでした。ただ一戦一戦を大事に戦おうとのみ考え慎重に試合をしました。その結果優勝でき、大変驚ろきました。その上、憧れの早稲田からお誘いいただき、こんな名誉なことはないと大いに感激しております。残念ながら今年このリーグ戦に出場できませんでしたが、来年までの一年間、しっかりと頑張りたいと思います。座を確保したいと思っております。

入替戦・リーグ戦詳報



三種目制覇で入替戦への合言葉で臨んだリーグ戦ですが、フタを開けてみると大苦戦。フルーレこそ優勝したものの、サーブル、エペ共に2位で立大、東農大と最後までもつれ込んだ末の総合優勝でした。いやあ、2部も強くなりました。

「総評」フルーレ初戦で明大に10―6と快勝した時は、好調なスタートを切ったと思われたのですが、2戦目の立大戦で6―10と不覚。その立大も明大に敗れ、早立明三すくみの状態。残り試合を全部勝ったとしても3校とも4勝1敗の同率で、決め手は勝ち数。立大が慶大に14―2で大勝した時はもはやこれまでというピンチに立たされたのですが、わが方も頑張ったので学大に12―4、慶大に14―2と大差で連勝。立大が最後の東農大戦で11―5ともう一つ勝ち数が伸びなかったため早大52勝、立大51勝と危うく1勝の差で優勝を

優勝、2種目2位につけた早大が総合点でわずか1点の差で立大を抑え優勝できたのでした。
昨年、今年と二部リーグで試合をしてみても、二部といえども上位校は一部下位校に急接近していることを痛感しました。今年1部に上がった日体大がエペで優勝し、王座決定でも同大を降し大学日本一に輝やいたこと。入替戦サーブルで早大が拓大に8―8と大健闘したことなどがそれを如実に物語っています。フルーレはまだ一部校が一枚も二枚も上ですが、エペ、サーブルに関しては差がなくなってきたというのが実状のようです。この辺に来季の1部返り咲きの可能性が見出せるのですが……。

(監督・川名宏美)

入替戦 全成績

- 拓大 2―0 早大
- ▽フルーレ 拓大 9―5 早大
- 山 田 3―5 出野
- 近 藤 1―5 山岸
- 安 部 5―4 北原
- 土 佐 4―5 藤倉
- 山 田 5―0 山岸
- 安 部 5―0 出野
- 近 藤 5―4 藤倉

リーグ戦 全成績

- ▽フルーレ
- 早 大 10―6 明大
- 早 大 6―10 立大
- 早 大 10―6 東農大
- 早 大 12―4 国学大
- 早 大 14―2 慶大
- 早 大 13―4 慶大
- 〔順位〕①早大(4勝1敗) ②明大(4勝1敗) ③国学大(2勝3敗) ④東農大(1勝4敗) ⑤慶大(5敗)

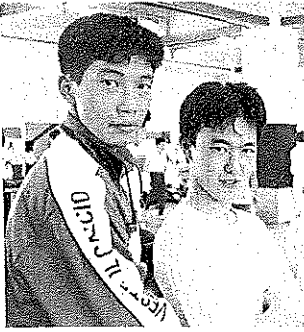
- ▽サーブル 拓大 8―8 早大
- 奇 藤 5―3 出野
- 小 林 4―5 及川
- 安 部 5―2 土屋
- 安 部 4―5 山岸
- 奇 藤 5―4 及川
- 安 部 5―2 出野
- 小 林 1―5 山岸
- 安 部 5―4 土屋
- 安 部 5―4 及川
- 奇 藤 1―5 山岸
- 安 部 5―4 出野
- 小 林 4―5 土屋
- 安 部 4―5 山岸
- 阿 部 5―4 及川
- 阿 部 5―4 及川
- 小 林 4―5 土屋
- 奇 藤 3―5 土屋
- 小 林 4―5 出野



さすがが入替戦のワセダ、応援に駆けつけたこのOB勢の多彩な顔ぶれをご覧ください



- 勝4敗) ⑥慶大(5敗)
- 〔個人成績〕出野晴信(19勝1敗) 藤倉剛(13勝7敗) 山岸大輔(12勝8敗) 北原整(5勝7敗) 及川啓介(3勝5敗)
- ▽サーブル
- 早 大 11―5 明大
- 早 大 8―8 立大
- 早 大 6―11 東農大
- 早 大 14―2 国学大
- 早 大 13―4 慶大
- 〔順位〕①東農大(5勝) ②早大(4勝1敗) ③立大(3勝2敗) ④明大(2勝3敗) ⑤国学大(1勝4敗) ⑥慶大(5敗)
- 〔個人成績〕及川啓介(14勝6敗) 出野晴信(14勝6敗) 山岸大輔(14勝6敗) 土屋敬(9勝8敗) 松沢繁(2敗) 山口卓宏(1敗)
- ▽エペ
- 早 大 12―4 国学大
- 早 大 6―6 東農大
- 早 大 9―6 明大
- 早 大 7―9 慶大
- 早 大 7―9 立大
- 〔順位〕①立大(4勝1敗) ②早大(3勝2敗) ③東農大(3勝2敗) ④慶大(3勝2敗) ⑤国学大(1勝4敗) ⑥明大(1勝4敗)
- 〔個人成績〕出野晴信(14勝6敗) 山岸大輔(12勝4敗4分け) 藤倉剛(9勝11敗) 北原整(6勝13敗)



索引車たり得なかった4年生コンビ北原主将(左)と及川主務「ど〜も済みませんでした」



「あ〜あ、勝てねえなあ」入替戦で健闘及ばず、闘將出野もグツクリ

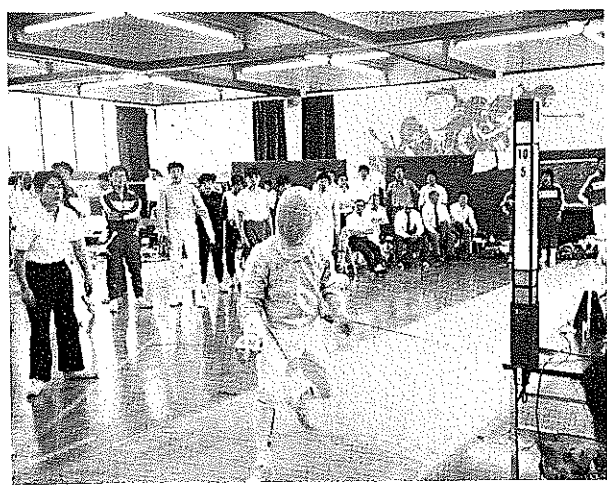
- 〔個人成績〕出野晴信(14勝6敗) 山岸大輔(12勝4敗4分け) 藤倉剛(9勝11敗) 北原整(6勝13敗)

慶大3部転落

わが校の好ライバル慶大が残念ながら3部に転落してしまいました。一昨年は日体大に負けて2部落ちしたものの、今季、国士館大と入替戦を行い、フルーレ負け、サーブル勝ち。得意種目のエペに2部残留を賭けたのですが、2部返り咲きに意気上がる国士館大の勢いに乗った試合展開に萎縮。リーグ戦での力を出し切れないうちで敗れ去ったのです。名門の一年でも早い復帰を祈っております。

電気サーブルの時代ついに開幕

この会報で再三お伝えしてきた電気サーブルですが、早くも公式戦に登場しました(写真参照)。リーグ戦で1部リーグのみ全面的に導入したものです。全国5学連(北海道、東北、関東、関西、九州)のトップを切った電気化。試合方法はフルーレと全く同じで主審1人が判定にあたり、試合時間は短縮され、トゥッシュを連打の判定のトラブルもなく好評でした。
学生としての秋の関東学生、全日本学生の2大会で個人戦の決勝に採用するほか、来年のリーグ戦は関東では2部も電気化。1年ごとに下部リーグに導入していく予定です。全日本選手権(平成3年3月、金沢市)ではやはり準決勝あるいは決勝のみ電気審判器を採用する見通し。世界のすう勢にす早く対応した関東学連が、日本協会に一步先んじて電気サーブルに取り組んだわけです。これは学連の大ヒットと評価してよいでしょう。



フルーレ同様コードを引っ張りながらの電気サーブル。右側のランプ(筒状の上端)に点灯するので判定はスッキリ